



本市では、平成30年度にILC実現に伴う効果を最大限に生かすための諸活動の取組指針として、「ILCと共生するまちづくりビジョン」を策定しました。

広報大船渡7月5日号では、「策定方針」や「将来像およびその実現のための基本的な考え方」などを紹介しました。本号では、「分野別の将来像」などについて、概要をお知らせします。

**分野別の将来像**

5つの将来像について、分野別に解説します。

**① 港湾・物流・道路**

ILCの誘致実現後、最初に本市に関係してくるのが、ILC建設に伴い資機材の荷揚げが想定される「港湾」、荷揚げされた資機材を運搬する「物流」、資機材が荷揚げされる港湾と建設候補地を結ぶ「道路」です。

本市では、これらの将来像を次のようにしています。

**世界と岩手をつなぐ海の玄関口 国際港湾都市**

■県内随一の港湾機能を多機能な物流ハブとして活用

重要港湾・大船渡港をILC建設における物流拠点として最大限活用するとともに、大船渡港からILC建設工事の各拠点へ至る物流ルートの確立を図ります。

大船渡港は、ILCに関連する資機材の検査、組み立て、さらには保管などにおいて、ILCの本体工事の工程に合わせた柔軟な対応が可能であり、本体工事の工程最適化に大きく役立つものと考えられます。

大船渡港周辺においては、ILCに関連する資機材の荷揚げだけでなく、それらの検査・組み立て・保管などにも対応できるような、多くの機能を担う物流ハブの形成を図ります。

【物流ハブ】5ページ用語解説参照

(通行困難箇所)と必要な対策の特定を進めるとともに、国・県と協調しながら、輸送ルート全体の最適化を図ります。

■物流ハブの将来的な有効活用(新たな産業振興の起点として)

物流ハブは、ILCの運用開始後も役目を終えることなく、引き続き重要な拠点として機能し続けます。

運用後も持続する港運事業などの誘致を積極的に行うことで、ILCに直接関係しない業種も含めた多角的な物流ハブの形成を図ります。

資機材の検査・組み立て・保管などの機能の研究・開発拠点機能へのシフトなどを図りながら、ILC運用後も大船渡港の持続的な有効活用を図ります。

■輸送ルートの最適化に向けた取り組み

建設開始に向けて、主要輸送ルートのボトルネック箇所

ILCに関する物流や交流の拠点、世界と岩手をつなぐ海の玄関口として、多角的な物流ハブを備えた国際港湾都市の形成を図ります。

**② 産業**

ILC誘致実現後は、建設候補地を中心に多くの産業が集積すると考えられます。

本市においても、ILC建設時における物流ハブを起点とした、さまざまな産業の集積が想定されます。

産業の創出は、人口減少対策の要である雇用の創出につながります。

本市では、「産業」分野の将来像を次のようにしています。

**ポテンシャルを生かした新産業の創出により 発展・進化するまち**

■ILCから派生する産業のマッチングによる産業高度化

早期から市や商工会議所、地元産業・事業所などが連携して、ILCから生じる技術人などと結びつけるマッチングにより、ILCからの派生技術などを活用した地域産業の高度化を促します。

■土地・建物のマネジメントによるスピノフ(派生)産業の誘致

【スピノフ】5ページ用語解説参照

ILC運用後に生じる各種のスピノフやインキュベーション施設の誘致に迅速に対応するためには、複数の土地を集約し、ある程度まとまった規模の土地としてマネジメントする必要があります。

ランドバンクの取り組みを展開するほか、公共施設の空きストックの産業用途への有効活用を進めるなど、資産の管理体制を構築した上で、スピノフ産業が進出しやすい環境を整え、新たな産業振興の起点となるまちづくりを推進します。

■ILCと地域資源のコラボレーション

本市において、窯業や水産業などの基幹産業を有し、かつ、港湾や工業用地など、物流強化や産業振興を図る上で重要な要素とポテンシャルを有していることは大きな優位性であり、その強みを積極的に生かします。ILCでは、関連施設への積極的な木材利用を進めることとしており、貴重な地域資源である気仙産木材の関連施設への利用を積極的

【インキュベーション、ランドバンク】5ページ用語解説参照

■「グリーンILC」と連携したまちづくり

グリーンILCの基本概念に則し、地元企業と協力しながら、排熱回収技術などの活用を含めた効率的かつ環境負荷の小さい地域エネルギーの供給を進めます。



本市のポテンシャルや地域資源を生かしながら、ILCから派生する技術、人などを地域産業とマッチングし、新たな産業の創出を促すことなどにより、発展・進化するまちを目指します。

**③ 観光・交流**

ILCの運用が始まると、多くの外国人を含む研究者とその家族が、ILC研究施設

**多くの人々から『選ばれるまち』**

■ILCと一体的に大船渡市の情報を積極的に発信

ILCに係る多様な人に対し、本市の「食や観光に関する魅力・特色を積極的に発信し、認知度の向上を図るとともに、それらの人の余暇需要の受け皿を広くおよび官民連携により整えます。

**「関わり」の拡大**

多方面に本市の存在・魅力をアピールし、「関わり」を増やすことにより、ILCにゆかりのある人やILCに興味を持つ世界中の人に認知され、「選ばれるまち」となることを目指します。



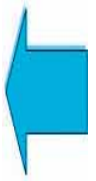
本市の魅力を積極的に配信します

■広域観光圏として連携

陸前高田市、住田町と連携して気仙地域一体となり、広域観光圏として多くの魅力を発信し、誘客を図ります。

■交流拠点としての魅力の強化

スピノフ産業の立地やインキュベーション施設の誘致に積極的に取り組み、交流の創出を促します。



物流拠点であることを生かしつつ、多方面に本市の「食」や観光に関する魅力・特色を積極的にアピールし、「関わり」の機会を増やすことにより、多くの人が集い、交流する「選ばれるまち」を目指します。